

特別展 足立美術館所蔵

横山大観と北大路魯山人展 一近代日本画の名品とともに一



横山大観《龍興而致雲》1937年



北大路魯山人《雲錦鉢》1941年頃
一特別展「足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人展」より一

■ 雪舟と周文【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 古九谷・再興九谷【古美術】

■ 特別展示 みんなでたのしむびじゅつかん
おおきい・ちいさい【近現代工芸】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

■ 没後20年 脇田和【近現代絵画】

- VRシアター 上映作品の追加
- 7月の行事予定
- 0才からのファミリー鑑賞会

- 令和6年度の新収蔵品
- アラカルト ただいま展示中

企画展(第7~9展示室)

特別展 足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人展 —近代日本画の名品とともに—

主催/足立美術館展実行委員会(石川県、石川県立美術館、北國新聞社) 特別協力/公益財団法人足立美術館

7月5日(土)~8月17日(日) 会期中無休

【観覧料】

	当日券	前売り	団体
一般	1,400円	1,200円	1,000円
中学生	800円	600円	500円
小学生	600円	400円	300円

*2階コレクション展観覧料を含む

足立美術館。その名を聞けば、横山大観をはじめとする近代日本画の名画の数々、それらと調和し、一幅の絵画ともいべき広大にして閑雅な日本庭園を思い浮かべることでしょう。本年、開館55年を迎える足立美術館は、安来市出身の実業家・足立全康氏が収集した横山大観の名品120点を核に約2000点のコレクションを有し、近年では500点を超す北大路魯山人のコレクションでも知られています。

本展では横山大観をはじめとする近代日本画の巨匠と、器や書など様々な分野で名品を残した芸術家、北大路魯山人の作品を合わせ、92点の展覧を通して、近代日本における芸術的個性をそれぞれの作品を通してご覧いただきます。

第1章 横山大観—美の革新者—
我が国の近代美術を代表する横山大観(1868~1958)の画業を、25点の作品を通して展覧します。

第2章 日本美術院—無窮をもとめる者たち—
日本美術の独自性を再評価し、新たな美術を目指した岡倉天心(1863~1913)が創設した「日本美術院」。横山大観とともに近代日本画の道を拓いた、日本美術院の日本画家たちを紹介いたします。

第3章 京都画壇—近代の俊英たち—
関東を中心に横山大観たち日本美術院のメンバーが活躍する一方、竹内栖鳳を中心として日本画を革新した京都画壇の俊英を紹介します。

第4章 坐辺師友—北大路魯山人の芸術—
美食家で陶芸家の北大路魯山人(1883~1959)は、金沢の文人・細野燕台に見出され、山代の名陶工・初代須田善華に手ほどきを受けるなど、石川とゆかり深い芸術家です。52点の作品で魯山人芸術を紹介いたします。

【関連行事】

■記念講演会

「足立美術館のコレクションと庭園の魅力」

日時：7月5日(土) 13時30分~15時

会場：石川県立美術館ホール(定員200名、当日先着)

講師：安部則男氏(足立美術館学芸部長)

■ギャラリートーク

日時：会期中毎週水曜日 13時30分~(1時間程度)

会場：石川県立美術館 企画展示室

7月9日、23日、8月6日は横山大観などの絵画作品、7月16日、30日、8月13日は北大路魯山人について当館学芸員が解説をします。

*要観覧料、申し込み不要

■土曜講座

①「魯山人といしかわ」

日時：7月12日(土) 13時30分~15時

担当：奈良竜一(当館学芸主任)

②「足立美術館コレクションから見る近代の日本画家たち」

日時：7月19日(土) 13時30分~15時

担当：日置樹也(当館学芸員)

③「戦争と絵画—足立美術館コレクションから」

日時：7月26日(土) 13時30分~15時

担当：前多武志(当館学芸第一課長)

会場はいずれも当館講義室(定員40名、当日先着)

■コラボスィーツ

会期中、館内カフェ「ル ミュゼ ドゥ アツシユ KANAZAWA」にて、展覧会をイメージしたコラボスィーツを販売いたします。

■早朝・夜間開館

・早朝開館(8時30分より)

7月19日(土)~8月17日(日)の土・日・祝日

・夜間開館(19時まで、展示室への入室は18時30分まで)

7月18日(金)~8月16日(土)の金・土曜日



小林古径《楊貴妃》1951年



竹内栖鳳《爐邊》1935年



横山大観《龍躍る》1940年



北大路魯山人《於里遍長鉢》1953年頃

※いずれも足立美術館蔵

古九谷・再興九谷

5月31日(土)~8月17日(日)

※6月30日(月)~7月4日(金)は休室

前号にて紹介した春日山窯の廃業を惜しみ、文政5年(1822)、加賀藩士武田秀平によって開かれた窯が、民山窯です。御細工所の細工人でもあった秀平は、多種多芸で、特に木彫に優れ、友月と称しました。陶号は民山で、赤く細かな描写が特徴です。弘化元年(1844)に秀平が没した後、まもなく廃窯となります。

《色絵山水図輪花鉢》は、民山窯の代表作のひとつで、見込み円窓内に南画風の山水図が描かれています。高台内には「民山」の銘が入ります。

同じく、春日山窯に従事した本多貞吉は、現在の小松市若杉町にあった若杉窯に移り、発展させました。若杉窯の隣村花坂村にて良質の陶石を発見したのです。阿波国徳島から赤絵勇次郎といわれる上絵の名

工が来窯するなど、各地から陶工名工を招きました。《色絵唐獅子牡丹図平鉢》は、高台内に「勇」の銘があり、赤絵勇次郎の作と思われる。

大聖寺の豪商豊田伝右衛門が開いた窯が、吉田屋窯です。吉田屋は豊田氏の屋号で、窯は文政9年(1826)に山代の越中谷に移ります。

作品は、日用品から芸術的に優れた作品まで多岐にわたり、うまく併用しながら経営されました。古九谷青手の「塗埋手」を踏襲しながらも、古九谷のような豪快な筆致ではなく、軽妙な筆づかいが吉田屋の特徴となっています。花鳥・山水・人物のほか、幾何学的な文様を取り入れた作品もあります。

《色絵象人物図角皿》は、当時はめずらしい象に乗った人物を描いた角皿です。



《色絵象人物図角皿》 吉田屋窯

雪舟と周文

7月5日(土)~8月17日(日) 会期中無休

日本において雪舟ほど名高い画家はいないでしょう。室町時代のみならず、後世への影響を考えれば、日本を代表する画家と言つて差し支えありません。

雪舟は応永20年(1420)、現在の岡山県に生まれ、「涙でねずみの絵を描いた」と伝説が残る、地元の宝福寺を経て上洛。その後、東福寺から相国寺に移り周文に学びます。30代で山口に向。40代後半での中国留学を経て、各地を遍歴し永正3年(1506)頃に87歳で没したといわれます。

雪舟の真筆とみられる作品は現在十数点。そのうち国宝に6点、他の多くは重要文化財の指定をうけています。山水画が特に有名な雪舟ですが、人物画や花鳥画にも優れた作品を残しています。今回展示の重要文化財《四季花鳥図屏風》は、右隻に春夏の景として松や椿、蓮華などと丹頂鶴、鷺、燕が描かれ、左隻

には芦原に野菊や竹とともに雁、丹頂鶴、鶺鴒などを描き、その背景に雪山を配し、秋冬を表現。複雑に絡み合う景物は、すべてが精緻に描かれています。

一方、周文は相国寺で如拙じよせつに教えを受け、雪舟を教えたとされていますが、生没年も不詳です。作品に落款が無いことから画風の特定が難しいといわれますが、伝周文とされる作品のうち2点が国宝に、20点が重要文化財に指定されていることから、その画業の重要性がうかがえます。今回は伝周文として重要文化財の《秋冬山水図屏風》6曲1双と《秋冬山水図屏風》1隻が並びます。

また周文と雪舟の師弟競演に加えて、雪舟が中国に渡った頃より遡る元代の画人・王若水による《花鳥図》3幅も展示します。



重要文化財《四季花鳥図屏風》伝雪舟(右隻)

特別展示 みんなでたのしむびじゅつかん おおきい・ちいさい

7月5日(土)~10月5日(日) ※8月18日(月)~22日(金)は休館

学芸員の眼

おおきいもの、ちいさいものに関して展示を固めていく最中に、重さの気になる作品をどうしても並べたくなくなりました。鳥が移動ケース横一列に並んでいるところがありま

す。鑑賞者は作品に触れていただくことができないので、言われてみるとどうも重さが気になる、また私たちが取り扱い中にこれこれでは?どちらが重い?と、気になる、そういう作品4点です。重さを測るときに一緒に作



米沢弘安《金銀家嵌篇鳥香炉》

おおきなきもの、ちいさなきもの。おおきなきものちいさなきもの。同じくらい大きさだけど、重さが違う鳥。素材の大小、モチーフの大小。コレクションにあるさまざまな大きさを並べて展示し、大きさの違いからによる、作品から受ける感じ方、発見などを、自分はもちろん、家族と、友人と、美術館と一緒に訪れた方と楽しんでいただく展示です。

「親子で楽しむ美術館」として夏休み中に親子で美術館に訪れて作品を見ることを楽しんでいただきました。この目線を意識してはじまった特集ですが、子どもだけでなく、親子だけでなく、様々な人々に身近なテーマで作品鑑賞を楽しんでいただきた

く、「みんなでたのしむびじゅつかん」と、冠も新しくなっています。今回は作品の大きさに注目し、当館のコレクションの中で、「大きいなあ、凄いなあ」「小さいなあ可愛いなあ」「同じくらいなのに重さ違うんだ。なぜ?」と、会話をしながら楽しんでいただける作品が皆さまをお迎えいたします。

今回は2期に渡り、夏休みと秋の行楽シーズンでの開催となります。この夏は親子、祖父母と孫、家族で! 秋は学校団体鑑賞(遠足行事等)や各種団体で!是非ご来館いただきたく、お待ちしております!



山田宗美《鉄打出狛犬大置物》石川県立美術館寄託 撮影:濱崎敏彦

近現代絵画(第3展示室)

没後20年 脇田和

7月5日(土)～8月17日(日) 会期中無休

昭和から平成の時代にかけて活躍した画家・脇田和(1908～2005)は、日本の洋画壇を代表する芸術家の一人です。脇田は東京に生まれ、父や祖母の影響を受け幼少期から芸術・伝統文化に親しんでいました。画家を志して青年期にドイツへ留学し、ベルリン国立美術学校(現・ベルリン美術大学)を卒業します。新進の若手画家たち、猪熊弦一郎、小磯良平らと、芸術の純粋性を掲げた「新制作派協会(現・新制作協会)」を後に結成し、生涯ともに制作活動を続けました。東京藝術大学では教員として後進育成にもあたります。たび重なる戦禍、病苦を乗り越え、個展、展覧会など国内外の様々な場で多数の作品を発表し、平成10年(1998)には文化功労者に選出され

ました。78歳をむかえて「これからも尚、歩み続けなければならぬ。終極のない道を出来る限り遠くまでと思う。」と語ったように、晩年においても芸術への意欲が衰えることはありませんでした。脇田の作品は「描こうと思うものは、長い間見つめていられるものでなければ」と、家族、鳥など身近なものをモチーフとし、豊かな色彩、マチエールと構成に彩られています。留学時代に鍛え上げられた堅実な素描と、創作への探求心と苦闘から、ほのぼのとした画面にもユーモアと緊張感が漂い、油彩画、版画、水彩画と多岐の技法にわたる作品を生み出しました。本特集では没後20年にあたり、およそ80年にわたる画業を当館収蔵品約40点によって振り返ります。



脇田和《西瓜と貝殻》

近現代絵画・彫刻(第4・6展示室)

優品選

7月5日(土)～8月17日(日) 会期中無休

第6展示室、日本画分野では石川県ゆかりの作家・作品の展示に加え、特別展「足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人展―近代日本画の名品とともに―」の開催にちなみ、当館が所蔵する近代日本画の名品を展示します。特に横山大観、小林古径、安田靉彦ら日本美術院の作家たち、そして橋本関雪、木島櫻谷など京都画壇で活躍した作家たちの優品をご覧いただきます。

第4展示室、油彩画分野から、金沢美術工芸短期大学(現・金沢美術工芸大学)で教授をしていた小糸源太郎の《猫のいる静物》をご紹介します。一本足のテーブルの上に船の模型や花模様の時計などが置かれ、床にはくつろいだ猫の姿が描かれています。静物

の精密描写で評価されていた小糸が新しい表現を試み始めた頃に制作され、身近に飾るほど気に入っていた作品です。田園調布に構えられたアトリエの雰囲気伝わってきます。

同じく第4展示室、彫刻分野では得能節朗《夏》をご紹介します。半そでのパーカーを着る女性がフードを掴み、被ろうとしています。暑い夏の日差しを避ける様子が想像される仕草です。健康的で生命感のあるしなやかな姿態は、一貫して女性像に取り組んだ作者が当時求めた、外形の美しさが形となっているようです。夏本番へ向かう季節へ思いをはせながらご覧ください。



得能節朗《夏》

VRシアターに新作が追加!

当館コレクション展示エリアにオープンした、最先端の映像技術を活用したVRシアターに、4月から新しい映像が追加されました。

「国宝 名物大典太 ―前田家に伝わる宝刀―」(約7分)

天下五剣のうちの二振であり、加賀前田家に伝わる国宝《太刀 銘光世作(名物大典太)》。霊力を持つとされる大典太が加賀前田家に伝えられた歴史と、美しい刀身の魅力を余すところなくご紹介します。

場所…2階コレクション展示エリア内 ※コレクション展の観覧券が必要です
上映日…毎日上映(コレクション展示エリアの休館日を除く)

上映作品

A「美を紡ぐ、そして文化を育む ―加賀前田家から現代へ、そして未来へ―」
(約18分)

B「色絵雉香炉 ―悠久の時を超えて―」(約15分)

C「前田家が伝えた万葉集 ―心を揺さぶるいにしへの想い―」(約12分)

D「国宝 名物大典太 ―前田家に伝わる宝刀―」(約7分)

※上映スケジュールは当館公式ウェブサイトをご覧ください。

7月の行事予定

■のびのび鑑賞デー

作品について感じたこと、思ったこととお話しながらコレクション展を楽しめる日です。

※ただし、通常の開館日のお客様同士の会話を制限するものではありません。

※のびのび鑑賞デーのご利用に、特別な手続きは不要です。

日時：7月13日(日) 9時30分～18時
(展示室への入室は17時30分まで)

会場：2階コレクション展示室

■対話で! 作品鑑賞会

のびのび鑑賞デーに合わせて開催されるイベントです。学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話しながら作品鑑賞を行います。作品への知識は必要ありません。作品をよく見て、おしゃべりしながらの鑑賞を楽しんでみませんか。

日時：7月13日(日) 11時～11時30分 申込不要

集合場所：2階コレクション展示室・受付前

定員：定員10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

※友の会会員は、会員証提示で無料で観覧できます。

■企画展関連

特別展「足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人展―近代日本画の名品とともに―」関連行事

※各イベント情報は、本誌2頁をご覧ください。

0才からのファミリー鑑賞会

あかちゃんから小学生までの小さなお子さんと、美術館デビューをしてみませんか?

全国さまざまな美術館で乳幼児からの鑑賞会をサポートしている、NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事である富田めぐみ氏を講師にむかえ、2階コレクション展示室で楽しく作品を鑑賞します。それぞれの年齢に応じた鑑賞の仕方でご家族と一緒に展示室をまわり、のびのびじつくりと楽しみましょう。今年度はコレクション展示室、第5展示室特別展示「みんなでののびむびじゅつかん おおきい・ちいさい」にて工芸作品を中心に行います。

日時…8月30日(土)①15時～16時

8月31日(日)②10時～11時 ③13時30分～14時30分

講師…富田めぐみ氏

(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)

対象…0才～小学生までのお子さんとそのご家族

定員…各回5組20名程度(先着順)

参加費…高校生以下無料、ご家族内おとな2名まで無料

申し込み…7月初旬インターネット(Pe a t i x)にて受付開始予定

定員に達し次第締め切り



昨年度の鑑賞会より(上・下)

令和6年度の新収蔵品

No	分類	作品名	作者名	員数	制作年	寄附者
1	陶磁	堆磁茶碗	神農 巖	1口	平成	個人
2	木工	木彫帯留	西出大三	1点	昭和10～20年代 (c.1935～1954)	個人
3	陶磁	色絵楼閣山水図平鉢 古九谷写	竹内吟秋	1口	19～20世紀	磯村覚司
4	漆芸	蒔絵箱「爽秋」	荒木 宏	1合	昭和59年（1984）	個人
5	漆芸	檜造髹漆線文楕円盛器	荒川文彦	1枚	平成20年（2008）	寺尾健一
6	漆芸	栓造溜塗盛器	林 暁	1枚	平成18年（2006）	寺尾健一
7	洋画	コレクション・あなたは誰	大場吉美	1面	平成14年（2002）	大場吉美
8	洋画	私のなかにもうひとりの私	大場吉美	1面	平成17年（2005）	大場吉美
9	水彩・素描	図案集 四季の草花	松田権六	1件 (31枚)	明治43～大正3年頃 (c.1910～1914)	松田秀貴

令和6年度新収蔵品9点 収蔵品総計（令和7年4月末現在） 4,068点



1. 神農巖《堆磁茶碗》*



2. 西出大三《木彫帯留》*



3. 竹内吟秋《色絵楼閣山水図平鉢 古九谷写》*



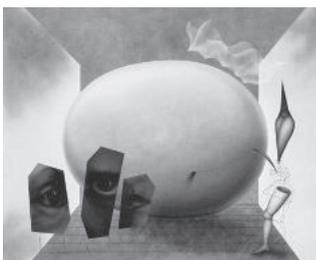
4. 荒木宏《蒔絵箱「爽秋」》*



5. 荒川文彦《檜造髹漆線文楕円盛器》*



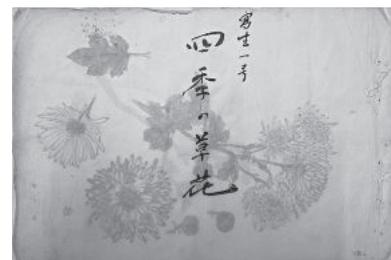
6. 林暁《栓造溜塗盛器》*



7. 大場吉美《コレクション・あなたは誰》



8. 大場吉美《私のなかにもうひとりの私》



9. 松田権六《図案集 四季の草花》

*撮影：濱崎敏彦

《車はまだ走っている》くるまはまだはしっている

縦130.3 横193.9 (cm)
昭和57年(1982)

脇田和 わきたかず

明治41(1908)～平成17(2005)

昭和の時代に国内外で精力的に創作活動を展開していた脇田和は、昭和45年(1970)に東京藝術大学を退職後、軽井沢、ハワイ、東京を生活と制作の拠点にしました。しかし昭和51年(1976)に大病を患い、療養のためハワイにしばし滞在することになります。その数年後に心臓バイパス手術を受けると、お見舞い客との面会を嫌がる姿を描いた《かくれんぼ》(昭和55)のように、自身の感情を表出しながら、ユーモアを湛えた作品を手がけました。続けて大作の《ボンコツ車を誘導する鳥》(昭和56)を発表し、翌57年に本作が第46回新制作協会展へ初出品されました。

前作と同様に、ほの暗い中を進む1台の車はボンコツ車に例えた自身の姿であり、乗客は家族と友人、車を導くかのように飛ぶ鳥は医師になぞらえているのでしよう。脇田の作品に欠かさず登場する鳥のモチーフは、「自分を託すもの」として脇田の創作の翼を広げました。色面を分割する幾何学的な画面構成には、脇田の好んだ画家、パウル・クレーの影響もうかがえ、像の反復によつ



て動感を生み出しています。快復と創作への喜びだけでなく、作家仲間、家族、愛する美しいものと余生を駆け抜け、ただひたすらに絵を描き続けよう、という脇田の静かな気概を鑑賞者に物語ってくるかのようです。晩年まで本作のような色彩が柔らかに溶け合う大作を制作しました。本作はコレクション展特集「没後20年 脇田和」(7月5日～8月17日)にて展示します。

次回の展覧会

令和7年8月23日(土)
～10月5日(日)
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
	実資が記した『小右記』と 源氏物語の世界	歌、ものがたり
第3・4・6展示室	第5展示室	企画展示室
優品選 【近現代絵画・彫刻】	特別展示 みんなでたのしむびじゅつかん おおきい・ちいさい 【近現代工芸】	北斎・広重 大浮世絵展

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
7月7日は第1月曜日より
コレクション展観覧無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

7月の休館日は
1日(火)～4日(金)

広告

憧れの在宅ワークもできちゃう♪

デザインスクールの
無料体験を
お試しください

子育てママ・パパも
デザインで在宅ワーク♪

デザインを学んでスキルアップ・副業・転職・独立・趣味等可能性を広げよう!!

オンライン講座あり

自宅で学べるデザインスクール

大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501 TEL.072-668-3275 運営/株式会社ウィット

石川県立美術館だより
第501号(毎月発行)
2025年7月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。